

はつかいち縦断みやじま国際パワートライアスロン

(広島県廿日市市)

報 告

日 時：2019年6月16日(日)

スタート：8時00分

参加者数：550人

距 離：ミドルディスタンス 77.5 km

結 果：エリートカテゴリー 8位/8人中

総合タイム 4時間 36分 44秒

スイム 2.5km 37分 01秒 (6) ・ バイク 55km 2時間 13分 02秒 (8) ・ ラン 20km 1時間 46分 41秒 (8)

※ () 内はカテゴリー順位

エリート(プロ)カテゴリーは全体で550人中、男子8人、女子3人と少ない。プロが集まらないレースも珍しい。ワンウェイの究極なコースが物語る。初代チャンピオンとして、このコースの怖さと難しさは誰よりも知っているつもりだ。どんなに取材で問われても、優勝します！なんて言う事はずっと言えてこなかった。ゴールするまでどうなるかわからないコース。

この度はエリートではダントツの最年長。全国から集まった若い強豪選手には確実に劣る。しかし、前述したようにゴールするまでわからない・・・負けようとは思っていない。レースは確かに毎週続いているが、フレッシュな気分だった。

スイムは泳げていると思ったが、タイムは以前に比べればそうでもなかった。(この時点ではわかっていない)バイクでは若い選手たちが追い抜いていく。それでもベテランとして粘ること。しかし最後の下りで気を付けていたにもかかわらず路面がぬれておりブレーキが利かず落車。ケガはないと思っていた。レースを続行し、ランへつないだ。しかし、どうも身体が重い、息が苦しい、横腹が痛む・・・それがなかなかおさまらないのだ。ペースは上がらず、応援する妻に思わず「苦しい…」と漏らした。妻はレースでのことだと思い、初めてそんな弱音を聞いた後で話す。事実は違うのだが。

レース中はたとえ負けることが決まっても、負け方にこだわろうと思った。とにかくゴールすることだけを考え足を進めた。らしくない、弱々しい自分が情けなく感じた。

ゴールのストレートは、力が出せないこの大会はこれで最後にしようかとも思い、今までお世話になった人や観客とタッチしながらゆっくり歩いてゴールを迎えた。インタビュー後ほっとしたのか急激に脇腹が痛みだす・・・肋骨骨折が分かった。

力がなくなったと思っていたレースだが、その理由が分かったことは想いに変化が生じるのかもしれない。

テレビのインタビューで「福元さんを応援している人は確実に増えてますよ…」その言葉に涙が流れた。また来年このレースへ参加するのは考えたい。

感謝 トライアスリート福元哲郎



